

令和4年度第1回国立大学法人山梨大学医学部附属病院監査委員会報告書

国立大学法人山梨大学医学部附属病院監査委員会細則第3条に基づき、監査を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法

山梨大学医学部附属病院における医療安全に係る業務の状況について、以下のとおり管理者等からの聴取及び資料の閲覧等の方法によって説明を求めることにより、監査を実施した。今回の監査も昨年と同様、Web会議方式にて開催された。

日時：和4年5月26日（火）17:00～18:30

場所：山梨大学医学部融合研究棟4階会議室及びWeb会議

委員長：矢野 真（日本赤十字社総合福祉センター所長）

委員：甲光俊一（こうみつ法律事務所弁護士）（副委員長）

保坂 武（甲斐市市長）

説明者：榎本病院長、木内医療安全管理責任者、荒神副医療の質・安全管理部長、松川医療機器安全管理責任者、河田医薬品安全管理責任者、大西医療放射線安全管理責任者、伊藤G R M、齋藤監事、八巻監事、野中事務部長、中村監査課長、齊藤総務課長、萩原医事課長、武居医療支援課長、根本医療支援課長補佐、保坂医療支援課専門員、大和総務課長補佐

2. 監査項目と結果

[1] 医療安全管理責任者の業務の状況について

医療安全管理責任者としての日常的な活動とともに、令和3年11月に受審した病院機能評価の中間報告について、資料に基づき報告があった。中間報告では、S評価が9項目、C評価が4項目で、C評価項目に対しては改善の上、令和4年1月に補充審査も終了しているとのことであった。

医療安全管理責任者としての役割を適切に果たしており、病院機能評価を利用して、改善に取り組んでいることが確認された。B評価項目や受審時の指摘事項も参考に、今後の継続的な改善につなげることが期待される。

[2] 医療安全管理部門の業務の状況について

(1) 患者誤認防止のため、患者を2つの識別子で確認することで院内統一したこと、(2) 画像診断及び病理診断の確認状況を医療安全管理部門で評価しているが、報告書確認体制チームを設置したこと、(3) 高難度新規医療技術についての実施及び報告状況、医療安全管理部門ではカルテレビューを行っていること、未承認新規医薬品を用いた医療実績、(4) 医薬品適応外使用申請実績、(5) インシデント発生報告の状況、(6) 状況報告書の検討状況、(7) 入院患者死亡・死産の確認状況、(8) 院内ラウンドの実施状況、(9) 医療の質・安全管

理部の改善活動について、資料に基づいて報告があった。

医療安全管理部門として幅広い活動を適切に実施しており、病院としても改善が進んでいることが確認された。医師のインシデントレポート提出率は10%を超えているが、薬剤部門等のコ・メディカルからの積極的な報告が望まれる。

[3] 医療安全管理委員会の業務の状況について

(1) 安全管理委員会の開催状況、審議内容、報告事項及び委員の出席状況、(2) M&Mカンファレンスの実施状況、(3) 安全文化アンケートの実施状況やその活用について、資料に基づいて報告があった。

委員会としての適切に活動しており、安全文化アンケートも結果を有効に活用していることが確認された。アンケート結果の継続的な活用と安全文化のさらなる醸成に期待したい。

[4] 医薬品安全管理責任者の業務の状況について

(1) 医薬品安全小委員会開催状況、(2) 医薬品安全使用のための点検の実施状況、口頭指示受けメモの周知状況、カリウム製剤の取り扱いに係る変更点の周知状況、(3) 医薬品に関する院内の情報提供において、不安定供給に関する情報発信が多かったことが、資料に基づいて報告があった。

医薬品安全小委員会は定期的で開催され、医薬品安全使用のための点検も適切に行われ、医薬品安全管理責任者としての役割を十分果たしていることが確認された。医薬品安全使用のための点検については、病棟や外来以外の部門における薬剤使用についても客観的な視点での評価が望まれる。

[5] 医療機器安全管理責任者の業務の状況について

(1) 医療機器安全小委員会開催状況、(2) 医療機器整備、点検、研修等の実施状況、(3) 医療機器に係るインシデントの把握と対処、レベル3以上の案件の詳細が、資料に基づいて報告があった。

医療機器安全小委員会が適切に開催され、医療機器安全管理責任者として、医療機器に係るインシデントを把握し、適切に対応されていることが確認された。

[6] 医療放射線安全管理責任者の業務の状況について

(1) 診療用放射線安全管理小委員会の開催状況、患者被ばくの理解のためのポスター等の掲示、患者への説明を記録に残すことの徹底、令和3年12月8日に発生した放射線被ばくの状況と再発防止策、(2) 診療用放射線の安全使用のための職員研修を実施し、100%の受講率を達成したことが、資料に基づいて報告があった。

患者への啓蒙、職員への教育研修が適切に行われ、医療放射線安全管理責任者としての役

割を十分果たしていることが確認された。

[7] その他

新型コロナウイルス感染症への対応として、大阪府や沖縄県への看護師派遣、貴重な事例の経験報告、ワクチン接種への貢献、医療強化型宿泊療養施設の運営等の取り組みが紹介された。全国的にも地域的にも大学病院が一丸となって貢献していることが確認された。


採血システムが更新され、検査結果判明時間の短縮や採血待ち時間の短縮等、患者の利便性が図られたと委員より感謝の言葉があったが、ピーク時の待合の混雑対応に苦慮し、早急に対応するとのことであった。


3. 総括

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回の監査委員会も Web 会議形式を併用して開催しました。特定機能病院に求められている医療安全管理体制は適切に構築され、十分機能しており、様々な活動が病院全体として年々定着してきていることが感じられます。監査委員会自体も病院長を中心に各安全担当責任者や管理部門が積極的に関与し、監査委員とも十分な情報交換がなされ、様々な立場の監査委員自身にも有用な場となっているように思います。新型コロナ感染症への対応も、大学病院として、そして地域の病院として、十分責務を果たしています。病院機能評価や安全文化アンケート調査等も活用し、さらなる改善に取り組まれることを期待いたします。

令和4年7月11日

国立大学法人山梨大学医学部附属病院監査委員会

委員長 (自署) 矢野 真 

副委員長 (自署) 甲光 俊一 

委員 (自署) 保坂 武 